



高齢者が活躍、活動できる環境づくり

● 現状と課題 ●

人口減少、少子高齢化時代においては、支援や介護を必要としない多くの元気な高齢者の活躍が様々な場面で必要になり、高齢者自身が地域や社会との関わりの中で、長年培った知識や経験、能力を活かし、社会の一員として役割を果たしてもらうことが不可欠となり、そのしくみづくりに取り組む必要があります。一方で、すべての高齢者が充実した高齢期を送るためには、高齢者自身が社会参加をする中で生きがいを実感できることが大切であり、高齢者の社会活動が自主的に展開されていくための支援が求められています。

少子高齢化や家族のあり方、世帯構成の変化に伴い、一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増加し、家族のみで介護を担うことが困難となっています。今後も、地域で孤立しがちな高齢者、手助けが必要な高齢者の日常生活を支え、住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を継続することができるようにするためには、公的な施策だけでなく、訪問や配食といったボランティアなどによる生活支援の提供を組み合わせ、高齢者を取り巻く様々な課題を解決していく地域包括ケアシステムの深化と推進を図る必要があります。

● 目指す方向 ●

- ① 生きがい対策を推進します
- ② 就労機会の充実を図ります
- ③ 包括的な支援、サービスの充実を図ります
- ④ 認知症高齢者対策を推進します

質の高い介護サービスを安定的に提供していくためには、不足している介護人材の安定的な確保、資質の向上などに対する取り組みを継続して実施することが求められます。

● 関連する個別計画 ●

・菰野町高齢者福祉計画・介護保険事業計画
(①～④)

認知症高齢者は今後も確実に増加していくことが見込まれることから、認知症高齢者を地域でケアできるよう、認知症サポーター等の見守りや支えあいを含めた地域での支援体制を整備するとともに、認知症の人や家族を医療機関や介護施設または各種提供メニューへつなげる体制づくりや、本人やその家族に合った支援を行うことが必要です。

● それぞれの役割 ●

町民・地域の役割	行政の役割
<ul style="list-style-type: none"> ・行事等へ積極的に参加する意識を持つ ・これまで培ってきた知識や技能を地域に提供する ・適度な運動で健康づくりに努める ・地域とのつながりを大切に、お互いに見守り支えあう意識を持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブに限らず、高齢者の活躍のための協議の場をつくる ・高齢者の知識や経験を活かしつつ、社会活動できるようにしくみづくりを支援する